

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察技術情報第17号（ナシ黒星病）について（送付）

ナシ黒星病の防除対策について、以下のとおり取りまとめましたので送付します。

1 農作物名 ナシ

2 病害虫名 ナシ黒星病

3 内容

- (1) 発生地域 県本土
- (2) 越冬菌量 多

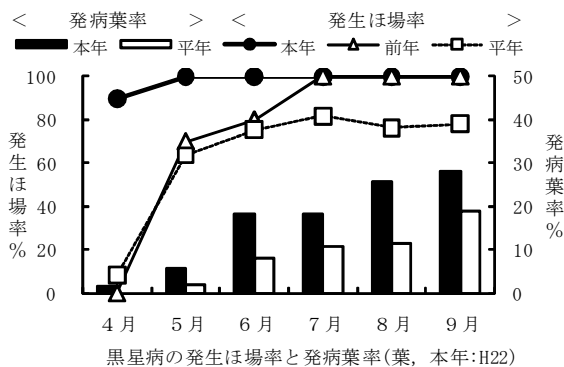
4 情報の根拠

- (1) 前年9月の巡回調査では、葉での発生ほ場率は100%（平年78%），発病葉率は28.1%（平年18.9%）で、越冬菌密度は高いと予想される。
- (2) 伝染源である発病えき花芽率は、巡回調査では3.2%（前年5.5%），定点調査では6.4%（前年1.9%），巡回調査での罹病落葉の発生ほ場率は60%（前年50%），定点調査での11月の罹病落葉率は81.5%（前年91.3%）で多発した平成22年産とほぼ同等で越冬菌密度は高い。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 主要な感染時期に当たる開花期前後の防除は、開花の早晚および生育相等を見極めて分量の薬剤を（SSでは200～250g/10a）散布する。なお、今年の低温遭遇時間は1月下旬で約1,100時間（東郷）と平年より3～4割多く、ナシの低温要求量を十分満たしている。
- (2) 開花期前後の防除は効果の高いDMI剤と保護殺菌剤を混用散布する。また、耐性菌の発生を防止するため同一薬剤の連用を避ける。
- (3) 発病葉や発病果は伝染源となるのでせん除し、園外に持ち出して処分する。
- (4) 本病に感染しやすい「幸水」や「豊水」の生育相を基に防除を行う。

(参考資料)



発病えき花芽



収穫後の罹病落葉

調査時期	黒星病の越冬量 (%)			
	巡回調査		定点無防除園	
	罹病落葉の発生ほ場率	発病えき花芽率	罹病落葉率	発病えき花芽率
本年	60	3.2	81.5	6.4
前年	50	5.5	91.3	1.9

